

1. プログラム

ともに学びを創る — 中高のキャリア意識の形成と自立的な学びを 育てるカリキュラムの開発 —

中高一貫教育を考える

名古屋大学教育学部附属中・高等学校中等教育研究協議会
第3回 全国中高一貫教育研究大会

主催：名古屋大学教育学部附属中・高等学校
名古屋大学大学院教育発達科学研究科・教育学部
全国中高一貫教育研究会
後援：文部科学省
愛知県教育委員会
名古屋市教育委員会

◆◆◆◆◆ 案 内 ◆◆◆◆◆

明治の初めに近代学校が成立して以来、日本は教育を「量」的に整備するという時代が100年以上にわたってずっと続いてきました。教師が画一的な教育内容を多くの子どもたちに一方的に伝達し、彼らはそれを受動的に受け取るという形態が取られたのです。しかし、今や成熟社会の段階に達し、少子化の流れもあって、ようやく教育の「質」的整備が可能となり、教育の「量」から「質」への転換が強く要請されています。子どもたちが自らの興味・関心に基づいて主体的に探求する学習を教師が支援するという教育形態の模索が始まっています。つまり、「教師中心」から「学習者中心」への学習の転換です。少人数クラス編成や総合的な学習、学力の捉え直しなども、教育の「質」を向上させるための具体的な方策として理解する必要があるでしょう。

ただ、初等教育と比べると、伝統的な受験制度の壁もあって、中等教育段階での「量」から「質」への転換はそれほど容易なことではありません。激変する社会のなかで、子どもたちの思春期の発達が今まで以上に複雑で難しい課題を抱えているときにこそ、彼らに寄り沿った中等教育そして中・高一貫教育の検討が重要な意義を持つと思います。

わが附属中・高等学校は、8年前から総合的な学習の研究開発に取り組んできました。現在では、その成果をどのように教科指導に生かすか、さらには新教科の開発や大学連携など新たな諸課題についても追究しているところです。

おかげさまで、文部科学省をはじめ、愛知県教育委員会、ならびに名古屋市教育委員会のご後援もいただくことができました。つきましては、ご多用中とは存じますが貴校の先生方の多数のご参加をいただき、ご指導、ご助言を賜りますようご案内申し上げます。

この機会に、私たちの日頃の取り組みの一端をぜひご覧いただき、そして研究協議にご参加いただきますよう、ご案内申し上げます。

2003(平成15)年11月

名古屋大学教育学部附属中学・高等学校長 今津 孝次郎

名古屋大学教育学部附属中・高等学校中等教育研究協議会 第3回 全国中高一貫教育研究大会

1 主 題 ともに学びを創る—中高のキャリア意識の形成と自立的な学びを育てるカリキュラムの開発—
中高一貫教育を考える

2 期 日 2004(平成16)年2月13日(金) 中等教育研究協議会
2004(平成16)年2月14日(土) 第3回 中高一貫研究大会

3 日 程

2月13日(金) 中等教育研究協議会

9:00	9:40	10:30	10:50	12:30	13:30	15:30	17:30
受付	① 公開授業	移動	① 公開授業	昼食	分科会		中高一貫教育 情報交換会
			② 公開授業				

※ 17:30 から中高一貫教育情報交換会(会費5000円程度)を行います。

2月14日(土) 第3回 全国中高一貫教育研究大会

8:50	9:10	9:20	10:20	10:40	12:20	12:30	13:00
受付	開会 行事	講演会	移動	シンポジウム ・中高一貫教育の成果と課題 ・六年一貫の学校づくりに向けて	休憩	中高一貫教育 研究大会総会	

プログラム

4 会場 2月13日(金) 中等教育研究協議会

公開授業：本校 各教室 分科会：本校 各教室

2月14日(土) 第3回 全国中高一貫研究大会

全体会・講演・シンポジウム・総会：名古屋大学豊田講堂・シンポジオン

5 内容 (1) 公開授業 9:40~12:30

■中学校 [教科の授業と特色のある授業]

1 限 9:40~10:30

学年	科目・題目	テーマ・ねらい	授業内容	授業者	授業場所
1年	国語 説明文のスタイルに慣れよう —斉藤武雄「ヒートアイランド」再読	客観的な文章の文体的な特徴をつかみ、的確に意味を捉え、意見と事実の違いを文の形から理解できるようになる。	本時を初回とする一連の授業は、上級学年で学習する本格的な論説文・評論文読解の基礎となる。本時では、生徒は表現活動から、叙述の視点により構文が変化するという言語現象を発見し、それぞれの文における意味の違いを考察する。	佐光美穂	中1教室
	理科 理科の謎を追究しよう	さまざまな自然現象に対する興味・関心を育てるために、1クラスを3グループに分け、大学と連携しながら追究活動を行う。観察・実験・調査などの方法を身につけ、知ることの楽しさを体験させ、活動内容を発表することで、自らの体験や知識を仲間と共有する機会をもうける。	大学との連携授業や1年間の理科の授業から発生した興味・関心や疑問などをもとに、各グループが行った観察・実験の結果や考察を発表しあう。	西川陽子 竹内史央	化学教室
2年	基礎数学	「確かに豊かな基礎力を育てる」	現在、中学校ではチームティーチング(T.T)が導入されている。T.Tは週3時間のうち1時間のみであったり、「主」で活動する先生と「従」で活動する先生との作業の度合いや方法で異なることが多く、他の学校でT.Tに関するさまざまな研究活動が行われている。この授業では2人が授業を動かすことで、生徒の数学的思考力や興味を高めるための授業実践を紹介する。	渡邊武志 福谷 敏	中2教室
	英語 モンゴルから来た少年 A Boy from Mongolia	英米豪に偏りがちな教科書の題材を補うため、アジアの国をテーマにした自主教材を用いる。英文を読み、その内容理解を通して、英語圏以外の世界の国々の生活や文化についての理解を深める。	モンゴル人の少年が母国を紹介するという設定で書かれた英文を読む。図書館での調べ学習と発表を含め、映像、音声等のメディアを加えて4回シリーズで授業を行う。モンゴルの言語や生活文化に触れ、世界の民族の価値観を知る。可能ならばモンゴル人留学生とチームティーチングを行う。	仲田恵子	中2教室
3年	基礎英語	実践的コミュニケーション能力のうち発信に関する「話す」「書く」「聞く」の能力を重点的に養成する。学習者が基礎的な文法力に加えて、文法の知識を創造的に活用する能力や場面に適した語彙を選択できる能力を身につけさせる。特に「新しい文の創造力」に重きを置き、機能レベルでの言語使用能力以外にコミュニケーションへの意欲をも基礎・基本の学力枠組みの中にとらえた指導を展開する。	1クラスを13~4人で1グループを形成し、それを3展開し、「スピーチ」「レシテーション」「スキット」の3つのプロジェクトに順次取り組ませる。約1ヶ月半(5回の授業)で1クールが終わる。一人のALTが3つのグループのうち必要な1グループに入り指導を行う。本時の授業は全プロジェクトで1クールの最終授業で「発表」の時間である。	鈴木克彦 藤田高弘 木下雅仁 タン=エンハイ (本校ALT)	中3教室 3教室に展開
	公民 「世界平和の実現」を取り扱う。	「戦争と暴力の世紀」とも呼ばれる20世紀に生まれ21世紀を担う私たちに向けられる課題を考える。	中学3年生の総合人間科「国際理解と平和」で学習してきた内容を基礎にして、社会科とのリンクによる、より発展した学習を行う。	中野和之	社会科教室

2 限~3 限 10:50~12:30

学年	科目・題目	テーマ・ねらい	授業内容	授業者	授業場所
1年	【ソーシャルライフ】 心の教育として人間行動の理解を深めて、体験的に対人関係構築スキルを学ぶ				
	個人と集団(社会より小さい集団)との関わりの中での対人関係について考える	教育心理学や社会心理学の知見をベースにした体験的学習により、他者理解、社会との関わりを考えさせる。	「動的な授業(アクティビティを行う授業)」と「静的な授業(じっくりと思考を深めながら学ぶ授業)」を実践する。	中村明彦	中1A教室
	「個人と個人」が関係する場面を社会の中に見いだして考える授業			木下雅仁	中1B教室
2年 3年	【選択プロジェクト】 9教科11講座。自分の興味関心のある分野を中2と中3が一緒になって少人数で学ぶ選択教科(公開授業では6講座を開講)				
	国語 書に親しむ	詩句や文章を書写することで、文学作品をより深く味わうとともに、用紙や文字の配置にも考慮した効果的な表現方法を探求する。	自作の句を、色紙や短冊に書いて作品として仕上げる。その作品に説明を加えて発表し、鑑賞し合う。	杉本雅子 本校講師 小塚陽子	書道教室
	社 GISあれこれ	四次元GIS・パソコン上で新旧地形図画像を比較して地域の変化を探る。	GIS(地理情報システム)ソフトの一つである「School GIS」を利用して、昭和2年と現在の地形図画像を比較したり重ね合わせたりすることで地域の変化の様子をさぐる。生徒は前時に学校周辺地域を対象にして基本操作を習得しており、本時では各自が別々に自宅付近の変化ぶりを探っている様子を公開する。	佐藤俊樹	コンピュータ室
	数 数学をつくろう & 数検にチャレンジ	普段の授業では扱わない問題をじっくり考え検討を加えながら楽しく実感をさせる。	数学検定二次の数理技能検定の問題を解く。グループでの相談を通して、課題とする問題についての理解を深め、発表、説明する。また、試行錯誤を必要とする課題に取り組み、数学の問題を全体で解決していく。	山崎辰雄	中3教室
理 身近な化学・生物	普段の授業では扱いにくい化学・生物の内容を、実験を通して理解させ、高等学校理科(主に化学・生物)の実験授業の核になる生徒を育てる。	大豆から豆乳をつくり、その豆乳を用いて豆腐を製造する。また、大豆の用途、大豆の成分やその成分の動き・性質などを調べて発表する。	原 英俊	化学教室	

体 附属発! 未来のスポーツ	普段の授業では扱わないスポーツ種目や祖父母・両親から聞き取り学習した昔の遊びの体験を通して、道具や場所の工夫、ルールの徹底の重要性を学ばせたい。この学習活動の延長で、自分たちのスポーツを創らせたい。これが生涯体育の一助となりスポーツをする楽しさを身につけることになると信じている。	生徒たちは、ここまでの時間に「昔の遊び」や「既存のスポーツ」を色々体験してきた。この時間は、グループごとに考案創作した新しい「未来のスポーツ」を全体の場で発表し、みんなで実際に体験しあう。	飯島幸久	第二体育館
音 歌で表現しよう	体を使って音楽を表現することにより、幅広い音楽の表現力を身につけることをねらいとしている。また、仲間と協力して一つのものを創り上げ、音楽の楽しさを味わう。	これまでの活動の中で、手話で歌う、ア・カバラで歌う、音でイメージを表現するというそれぞれのテーマごとに分かれ、練習を行ってきた。本時では、グループごとに練習の成果を発表し、様々な表現方法を学ぶ。	長瀬加代子	音楽教室

■高等学校 [新教科と教科・総合的な学習の時間「総合人間科」]

2限～3限 10:50～12:30

学年	科目・題目	テーマ・ねらい	授業内容	授業者	授業場所
1年	【総合的な学習の時間】 フィールドワークを中心として自主的に学ぶ力を育て自分さがしをする「総合人間科」の授業				
	「生命と環境Ⅱ」	総合人間科(総合的な学習の時間)の主体的な学習の成果を共有し、今日的な課題についてのアプローチの方法についても学ぶ。	個人研究テーマの学習とフィールドワークによって調査研究した成果を持ち寄り、生徒によるパネルディスカッションにより総合人間科の発表を行う。	川合勇治 山田玲子 今村敦司 山田孝	第一総合教室
2年	【新教科群】 大学の学問領域につながる内容で4つの領域からなるクロスカリキュラムの新しい授業				
	「共生と平和の科学」	既存教科では十分に時間をとって学習することができないが、現代社会においては無視することのできない内容を3つのベクトルからアプローチする。	これまでの学習経過に基づき、共生と平和を阻害する要因を列挙し、その相互関係を見つけ原因を追及する。また自分たちには何ができるのかについて解決策を考える。	名古屋大学教育 発達科学研究科 高井次郎 先生 原 順子 高橋伸行 三小田博昭	小体育館2階
	【大学との連携の授業】 大学と連携して教科の授業を創る				
	政治経済	高校から大学につながる学びのあり方を国際的な視点から探求する。	アジアからの留学生に語ってもらい、その後の討論を通して大学での研究、社会への貢献につながる新しい学びのあり方を模索する。	川田基生 経済学部大学院 留学生 ケオラ・スックニラン	社会科教室
家庭科	「家庭経済と消費」について理解する。	生徒達は職業経験もなく、経済のことについて話しをしても知識の伝達だけで実感は伴わない。本授業では、身近な題材を取り上げ、生徒自身も家計を担う一員であることをディスカッションなどを通して実感できることを目標とする。	鈴木善晴 立命館大学 斉藤真緒 先生	高2教室	
3年	【キャリア教育】 中高の六年間を通して育てるキャリア(学びの力、自立の力、人とかかわる力)形成				
	座談会「卒業生・在校生が生き方(キャリア形成)について語る」	総合人間科、新教科群、教科の授業、進路指導などを通してどのように生き方を考え進路を決定し、自らの生き方をデザインしていく力を育ててきたかを高校三年生と卒業生が語り合う。		石川久美 寺井 一 岡村 明 丹下容子 加藤容子	第3総合教室

(2) 分科会 13:30～15:30

	分科会名	テーマ	協議内容	発表者	研究協力者	会場
中	A 教室で学ぶ人間関係構築スキル	本校における「心の教育」の新たな発展の方向を考える。	大学研究者と共同で「心の教育」をカリキュラムに配置し、授業として実施し4年目を迎えた。「心の教育」=「ソーシャルライフ」の授業開発者からの解説と、本時の授業者の実践報告をもとに意見交換を行う。今後の本校の「ソーシャルライフ」の発展の可能性についても協議を行う。	中村明彦 木下雅仁	名古屋大学大学院教育 発達科学研究科 吉田俊和 先生 愛知淑徳大学 斉藤和志 先生 大同工業大学 小川和美 先生	図書館
	B 中学における必修教科と選択教科	中学における必修教科と選択教科を考える。	3年目を迎える少人数選択授業「選択プロジェクト」の実践報告を行う。中高一貫カリキュラムのキャリア形成中での選択授業の位置づけや、教科における選択の意味、異年齢集団等の授業実践の課題等について意見交換を行う。	山崎辰雄 仲田恵子	名古屋大学大学院教育 発達科学研究科 寺田盛紀 先生	第一総合教室
高	C 高校における教科の未来	「新教科」を通して教科の未来を考える。	高校における新しい教科のあり方を、本校の「新教科」の実践を素材に議論しともに考えを深めていく。協議はパネルディスカッション方式でおこない、論点を明確にしながらパネリストとフロアとの相互の議論ができるようにする。はじめに、大学教員、高校教員、生徒の三者の立場から本校の「新教科」の成果と課題を討議する。次に、今後の新しい教科の可能性と今後の展望を日本(世界)の教育環境の変化を視野に入れながら幅広い観点から議論する。	三小田博昭 佐藤喜世恵 藤田高弘	中部大学 野田真里 先生 名古屋大学大学院教育 発達科学研究科 高井次郎 先生	社会科教室
	D 21世紀の学力	21世紀の学力のあり方について考える。	昨今、いろいろな場面で「学力低下論」が唱えられているが、高等教育に携わる方、企業に携わる方から、今後求められる「学力」はどんな学力かを聞き、「21世紀に求められる学力」を、理解する力、表現する力、思考する力、情報や知識を使う力、自分を知る力、人や社会と関わる力、問題を設定する力、問題を解決する力と考え、中等教育の場でどのようにして「21世紀に求められる学力」を付けさせたらよいかを、アンケートを基に考察するものである。また、大学との連携による授業実践、TTによる授業実践から、成果と今後の課題を明らかにしたい。	山田 孝 今村敦司	名古屋大学名誉教授 小川克郎 先生	書道教室
中・高	E 青年期のキャリア形成	中学校・高校におけるキャリア形成を考える。	中高6ヵ年間でどのように生徒がキャリア意識を形成していくかを探る。本校での総合人間科、新教科群などの取り組みや進路指導によって生徒の中でどのようにキャリア意識が形成されたかを具体的な実践報告をもとに考える。 昨年度実施した調査結果をもとに研究協力者である金井篤子先生(本学教育発達科学研究科)による青年期のキャリア形成についての報告が行われる。また、青年期のキャリア形成に関する討論も行う予定である。	石川久美 丹下容子 寺井 一 山田玲子	名古屋大学大学院教育 発達科学研究科 金井篤子 先生	第3総合教室

(3) 第3回 全国中高一貫教育研究大会

8:50~ 9:10 受付

9:10~ 9:20 開会行事 挨拶 教育発達科学研究科長 村上 隆

附属学校長 今津孝次郎

副校長 丸山 豊

9:20~ 10:20 講演「中高一貫教育の現状と課題」

文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課 教育制度改革室 田中 正幸氏

10:40~ 12:20 シンポジウム

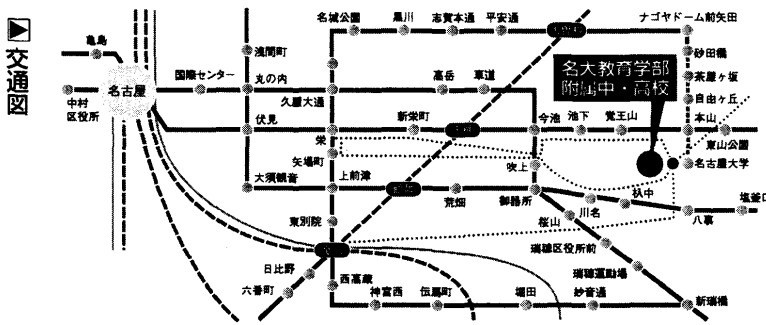
(4) シンポジウム (中高一貫教育を考える)

I 中高一貫教育の成果と課題	II 六年一貫の学校づくりに向けて
コーディネーター 東京大学教育学部附属中等教育学校 副校長 草川剛人氏 シンポジスト (奈良女子大文学部附属中等教育学校) 中等教育学校 吉田信也氏 (高知県立中村中学校) 併設型 教頭 谷 範浩氏 (山口県立安下庄高校) 連携型 校長 黒田 洋氏	コーディネーター 名古屋大学教育発達科学研究科 附属学校長 今津孝次郎 シンポジスト (白鷺高校開設準備室) 都立中高一貫校 教頭 増田 稔氏 (名古屋大学教育学部附属中学・高等学校) 併設型 副校長 丸山 豊 (早稲田大学) 教育学部教育学科 教授 安彦忠彦氏

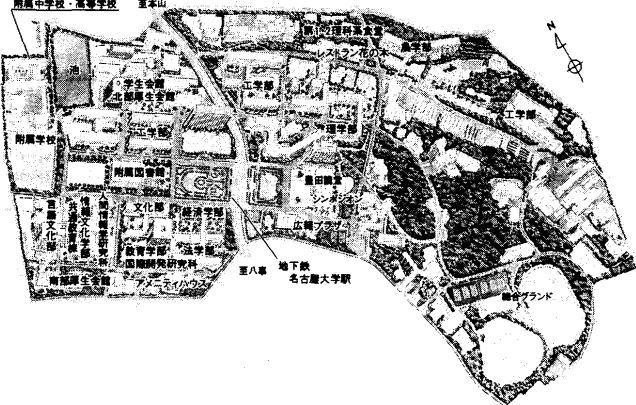
6 申し込み方法

1. 申し込み 申込書にご記入の上郵送、またはFAX、もしくはE-mailでご連絡下さい。
2. 参加費 **2,500円**(書籍・資料代を含む)
3. 申込締め切り **2月2日(月)**
4. 送り先 〒464-8601 名古屋市千種区不老町
 名古屋大学教育学部附属中学・高等学校 研究協議会 事務局 宛
 TEL: (052)789-2680, 2681 FAX: (052)789-2696
 URL <http://highschleduca.nagoya-u.ac.jp/> E-mail: yamada@highschleduca.nagoya-u.ac.jp

7 会場案内



交通図



本校付近図

◎市バス
 金山12 金山⇄名古屋大学前
 栄16 栄⇄名古屋大学前
 (四ッ谷通三丁目下車、西へ約100m)
 栄17 栄⇄名古屋大学前
 八事11 平針住宅・島田住宅⇄猪高車庫・光ヶ丘
 ※いずれも名古屋大学前下車、西へ約500m

◎地下鉄
 東山線本山下車、南へ約1km
 名城線名古屋大学駅西へ約400m